

滝宮念仏踊（8月25日）

綾川町

8月25日 午前 滝宮神社（牛頭天王社） 午後 滝宮天満宮



仁和4年（888年）の大干ばつのときに、国司であった菅原道真が城山（きやま）で七日間の雨ごいを行い、大雨を降らせ皆を救ったことを讃えて踊ったことに由来しています。その後、法然（ほうねん）上人が振り付けをして、念仏を唱えながら踊るようになったので、念仏踊りといわれるようになったと伝えられています。

神社の近くに、踊り組や関係者が勢ぞろいし、のぼりを先頭に、奴や子踊り、大傘や長刀、太鼓に笛、かね、ほら貝などが、踊り場に入場して踊りがはじまります。これを入庭（いりは）といいますが、雨ごいのためには、入庭はせず、子踊りも出しません。ほら貝の合図で踊りがはじまると、花笠をかぶり陣羽織を着た踊り手が、太鼓・笛・鉦・ほら貝のはやしにあわせて、表に太陽、裏に月を描いた大団扇（うちわ）をひらめかせ、「ナムアマドーヤ」と唱える音頭に合わせて踊ります。令和4年には「風流踊」としてユネスコの無形文化遺産に登録されました。（国指定重要無形民俗文化財）